



ソフトバンクグループ株式会社

2020年3月期 決算説明会

2020年5月18日

登壇

孫：最近、なかなか大変ですね。世界中で、毎日のように出てくるいろいろな悲しいニュース、そういうものを見ながら、私自身も人生観を何度も振り返っているのですが、多くの皆さまもそういう思いではないかと思います。

それでは、さっそく決算発表の内容に入りたいと思います。



1929年 世界恐慌

1929年、世界恐慌がありました。



NYダウ平均株価

世界恐慌前の最高値
\$381
(1929年9月)

世界恐慌前水準に回復
\$383
(1954年11月)

世界恐慌後の底値
\$41
(1932年7月)

25年かけ回復

(1929年-1954年)

1929 '32 '35 '38 '41 '44 '47 '50 '53 (年)

(出所) S&P Capital IQ 4

そのときは、ニューヨークダウの平均株価は10分の1に下がりました。そのニューヨークダウの平均株価が戻るのに25年かかりました。世界中に大きな打撃を与える大恐慌であったわけです。

2020年 新型コロナ

5

今回の新型コロナも同じように、世界に大きな影響を与える出来事ではないかと思います。

累計感染者数 (世界)

(人)

453万

急拡大



'20年1月 '20年2月 '20年3月 '20年4月 '20年5月

2020年5月17日時点
(出所) 世界保健機関 (WHO)

6

累計の感染者数が世界で 450 万人になりました。旅行者数は急減し、90%ダウン。自動車の産業は出荷台数が 5 割近いダウン。レストランの売上高も 80%ダウン。

労働への影響 (世界)



27億人に影響



(出所) International Labour Organization

*4月7日時点 世界の労働人口33億人のうち、COVID-19を理由とする職場の全般的・部分的な閉鎖の影響を受けた労働者の割合 10

全世界の労働人口の約 80%に影響を与えた、大変な未曾有の危機だったのではないかと思います。

連結業績

(億円)

	2018年度	2019年度	増減額	増減率
売上高	60,935	61,851	+916	+1.5%
営業利益	20,736	-13,646	-34,382	-
当期純利益	14,112	-9,616	-23,728	-

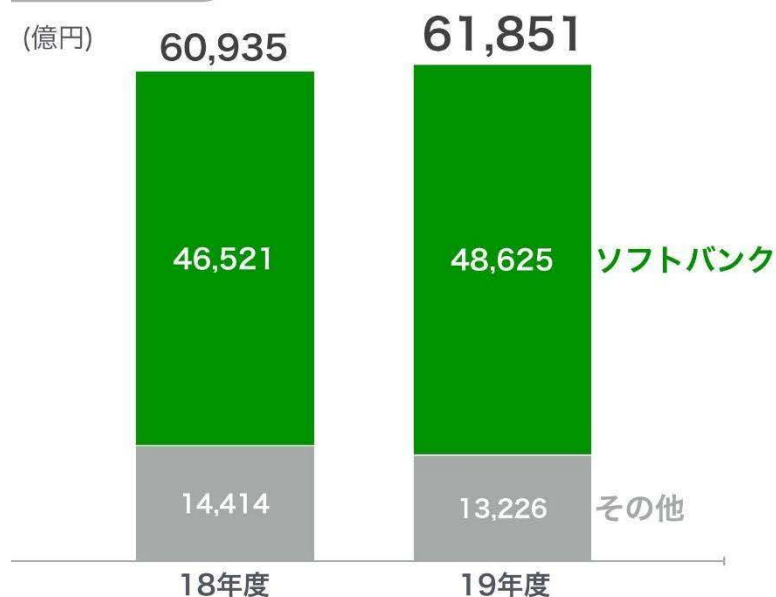
当期純利益：親会社の所有者に帰属する純利益

13

このような背景の中で、われわれソフトバンクグループ株式会社（SBG）もいろいろな影響を受けました。業績については、すでに業績予想を数週間前から発表していますので、皆さまにとってはご存じの内容だと思います。営業利益、当期純利益と大きく影響を受けました。

売上高

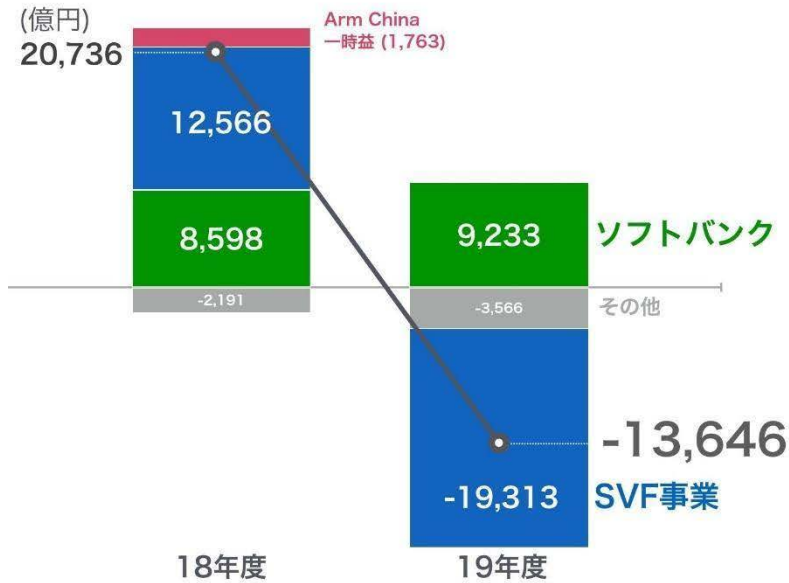
(億円)



その他 = Arm + ブライトスター + 「その他」 + 調整額 14

まず売上高ですが、ご覧のとおりで、あまり大きな影響はありません。

営業利益

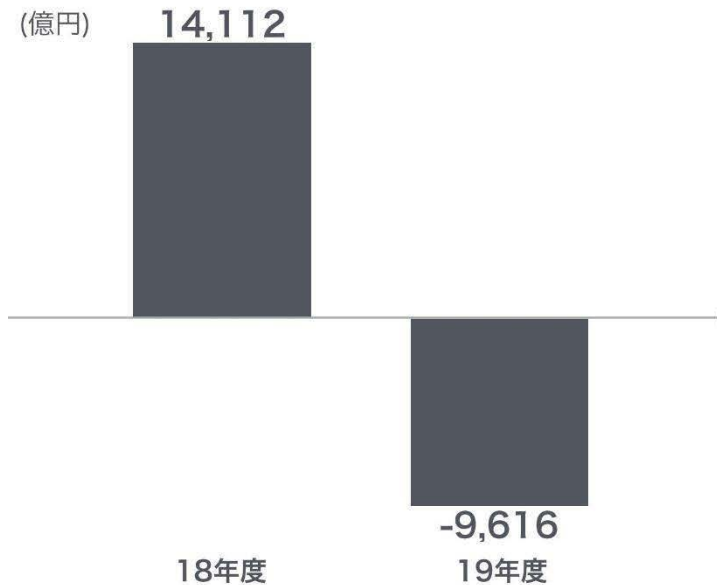


Arm China一時益：2018年6月26日にArmはArm Chinaの持分の51%を複数の機関投資家等へ売却。この結果、Arm Chinaは当社の子会社に該当しないこととなったため、当社は子会社の支配喪失に伴う利益を計上。
 その他 = Arm + プライムスター + 「その他」 + 調整額
 SVF事業：ソフトバンク・ビジョン・ファンド等SBIの運営するファンド事業

15

営業利益、この緑の部分はわれわれの国内通信の事業です。コンスタントに業績を伸ばすことができていますが、ブルーの部分、ソフトバンク・ビジョン・ファンド（SVF）が大きくマイナスという形で、経営の足を引っ張りました。

当期純利益



当期純利益：親会社の所有者に帰属する純利益

16

当期純利益も同じような形で、大きくマイナスになっております。

SVF1 累計投資成果 (SBG連結目線)

(SVF1 開始から2020年3月末まで)



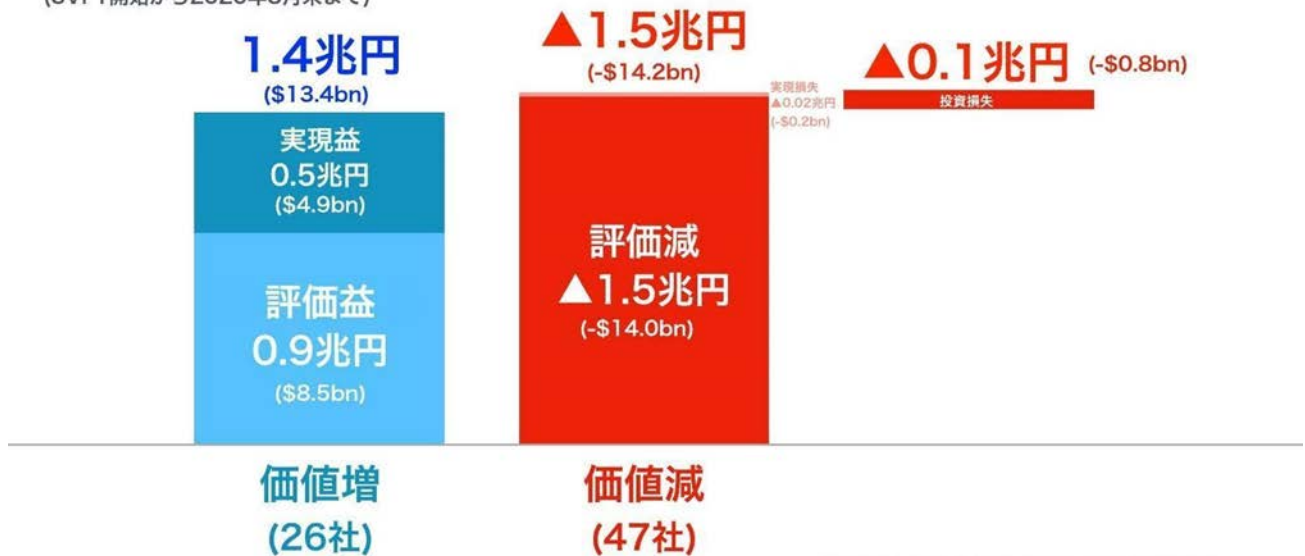
SVF1開始以降の累計投資利益、売却済の投資(NVIDIA、Flipkart等)を含む、税金・譲渡所得考慮前
SBG連結目線：NVIDIAのヘッジ取引に係るデリバティブ損益等を含む
1ドル=108.83円(2020年3月31日TTM)で換算
社数にはヘッジ取引等の金融取引の件数を含む。(例：NVIDIAとNVIDIAのヘッジ取引は1社としてカウント)

20

では、SVFがどういう状況かという、SVF1として、これまで出資している会社が88社ございます。累計の評価益プラス実現益が1.4兆円。濃いブルーのところ为实现益、そして薄いブルーが評価益です。評価減が1.5兆円。評価増になったのは26社、評価減が47社です。

SVF1 累計投資成果 (SBG連結目線)

(SVF1 開始から2020年3月末まで)



SVF1開始以降の累計投資利益、売却済の投資(NVIDIA、Flipkart等)を含む、税金・譲渡所得考慮前
SBG連結目線：NVIDIAのヘッジ取引に係るデリバティブ損益等を含む
1ドル=108.83円(2020年3月31日TTM)で換算
社数にはヘッジ取引等の金融取引の件数を含む。(例：NVIDIAとNVIDIAのヘッジ取引は1社としてカウント)

21

SVFの累積の投資額と、その中における評価益、評価減でいきますと、実は1,000億円の評価減でとどまっているということです。これが累積の投資に対する成績です。

前期はこれが大きくプラスで、合計の2兆円の営業利益を出しておりましたので、そこから比べれば、今年は大幅な減益となったわけです。

SVF1 累計投資成果 (SBG連結目線)

(SVF1開始から2020年3月末まで)



SVF1開始以降の累計投資利益、売却済の投資(NVIDIA、Flipkart等)を含む、税金・諸費用等考慮前
SBG連結目線：NVIDIAのヘッジ取引によるデリバティブ損益等を含む
1ドル=108.83円(2020年3月31日TTM)で換算

22

もっといいますと、累積で投資したのは8.8兆円です。その8.8兆円の投資に対して0.1兆円、約1,000億円の投資損失であったということです。

SVF1の資本構成



*SVF1に関連するインセンティブ・スキームへ活用される予定の\$5bnを除く
1ドル=108.83円(2020年3月31日TTM)で換算

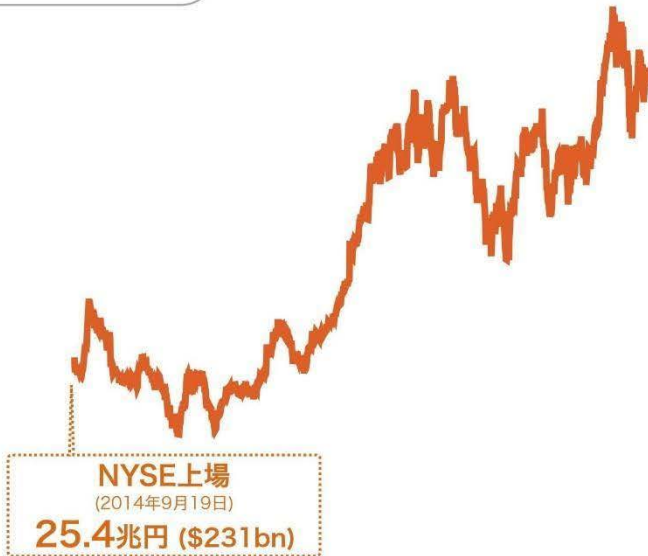
23

今日現在でいいますと、もう少し成績が良くなっていますが、3月末で締めたところ、1,500億円ぐらいの益であったという状況です。

時価総額

 **Alibaba Group**
阿里巴巴集团

59.5兆円
(\$547bn)



2020年5月15日終値

2014 '15 '16 '17 '18 '19 '20 (年)

1ドル= 108.83円(2020年3月31日TTM)で円換算

(出所) S&P Capital IQ 28

その他の保有資産についても報告します。

アリババが実は、われわれ SBG が保有している資産の中で、今日現在、一番大きなところになっています。アリババの株価は、今年に入ってから、特に中国をはじめとして先にコロナの影響を受けています。しかしこの株価を見ていただくとお分かりのように、いったん下げましたが、そこから下げ止まって、むしろリバウンドしている状況になっています。今日現在は、中国国内ではかなりアリババの出荷も増えて、平常時に業績も戻りつつあるという状況です。

売上高

(億円)

46,568

48,612

18年度

19年度

4%増



*2018年度実績は、Zホールディングス株式会社（旧ヤフー株式会社）を連結子会社化した影響の遡及修正済 29

ソフトバンク事業は4%の売上増。

営業利益

(億円)

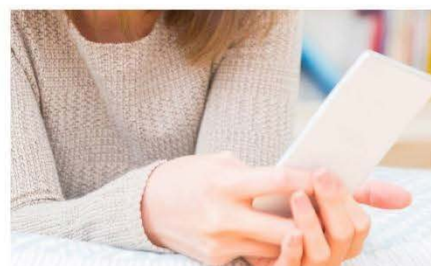
8,182

9,117

18年度

19年度

11%増

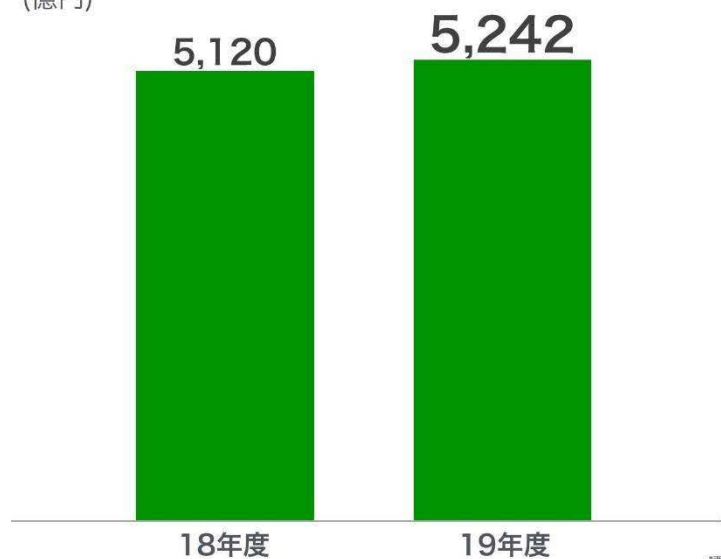


*2018年度実績は、Zホールディングス株式会社（旧ヤフー株式会社）を連結子会社化した影響の遡及修正済 30

営業利益が11%増、過去最大になっています。

調整後フリー・キャッシュ・フロー

(億円)



2%増



*調整後フリー・キャッシュ・フロー＝フリー・キャッシュ・フロー－ソフトウェア・グループ株式会社との一時的な取引
+ (前年度等の流動化による減価償却・回収済額)
Zホールディングス株式会社およびIFRS第16号影響を除く 31

フリー・キャッシュ・フローは2%増です。

2020年4月1日



合併が完了

32

今年の4月1日付で、スプリントはTモバイルとの合併が完了しました。もしこの合併が完了していなかったならば、このコロナショックの中で、大きくわれわれの経営の足を引っ張っていただろうと考えると大変大きな問題になったと思うのですが、幸いなことに、スプリントとTモバイルの合併が、正式に完了したということです。

持分比率

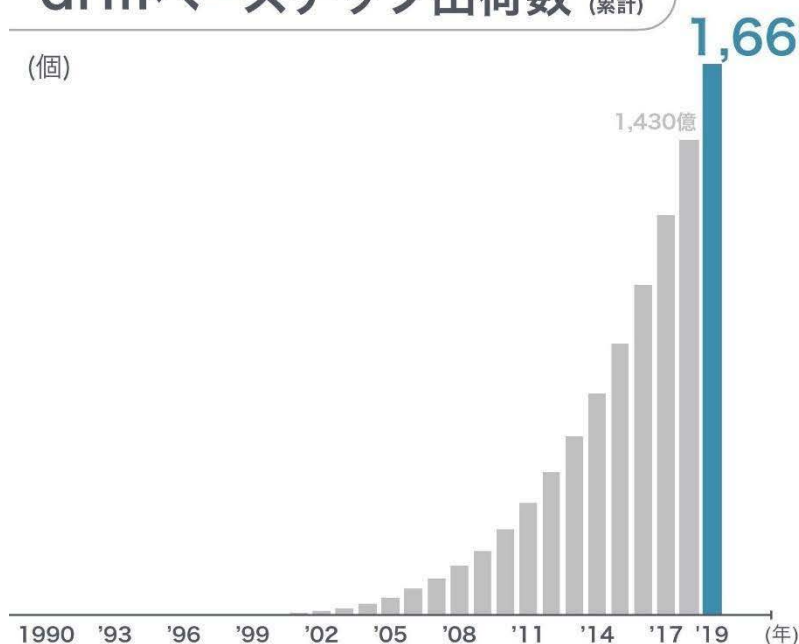


- 割合は完全希薄化ベースの数値
- スプリントとTモバイルの合併による取引実行後の当社からTモバイルへの引き渡し株式数考慮後
- 時価総額：2020年5月15日終値、1ドル=108.83円(2020年3月31日TTM)で円換算、出所：S&P Capital IQ 33

その結果、新しいTモバイルに対してSBGは、24%の株式を保有している形になっています。合併後の株価は大変順調に推移しており、これから合併のシナジーがいろいろと見込まれるということで、楽しみにしています。

armベースチップ出荷数 (累計)

(個)



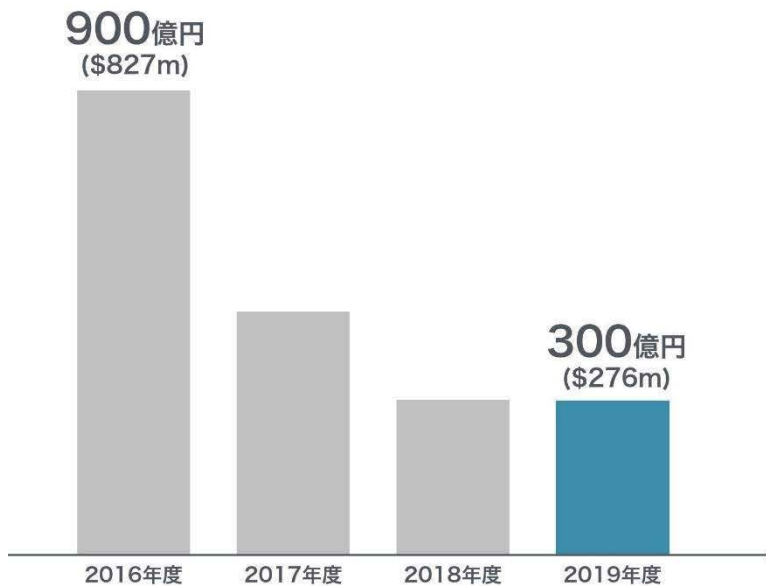
arm

急増

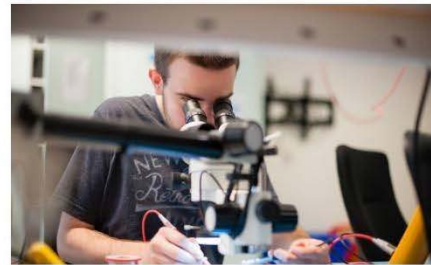


(出所) Arm 34

もう一つの重要な資産としては、Arm社があります。Armのチップの出荷は、二次曲線で順調に伸びが継続しています。



エンジニアを採用し 先行投資



1ドル = 108.83円(2020年3月31日TTM)で円換算
調整後EBITDA: アーム事業におけるセグメントの数値ではなく、アーム全体の数値
(出所) Arm

35

一方、Arm を買収してすぐにエンジニアの数を倍増するなどの先行投資を行っています。

これは買収した直後に、「エンジニアの数を倍増させるのだ」「先行投資をするのだ」「これは戦略的にそういう意思決定をしたのだ」ということを公表しました。売上はすぐに倍増しませんので、先にエンジニアが倍増するということはコストが先行型になります。

したがって調整後の EBITDA、われわれの利益、営業上のキャッシュ・フローというものは減ってきております。しかし、これはこれからの Arm の成長には大変、大きく役に立つのではないかと私は捉えております。

現に Arm は、携帯電話を中心としたところで大きく活用されていたわけですが、SBG が買収して以降、スマートフォンが伸びたのに加え、クラウド、データセンターなどで Arm ベースのチップが続々と採用されてきているのです。

AWS・Arm パートナーシップ

(AWS Graviton2 プロセッサー)



aws **arm**

処理速度が最大65%アップ*

最大40%のコスト削減**

(出所) Amazon.com, Inc. 2020年5月時点
*AWS M5g (Graviton2 採用) 仮想マシンとAWS M5 (Xeon Platinum 8000 採用) 仮想マシン間の比較における処理速度を比較
**AWS m5a (Neoverse) との比較でマシンのAWS Graviton2への置き換えによる電力消費の削減とアプリケーションの最適化による電力消費の削減によるコスト削減

36

特に、クラウドで世界ナンバーワンは Amazon の AWS ですが、Amazon の AWS で Arm ベースのチップがどんどん活用され、結果、Amazon のクラウドの処理速度が 65%アップして、電気代を中心としたオペレーティングコストの 40%削減ということが実現されています。

arm

エコシステムが拡大

クラウド・サーバー向けプロセッサIP
NEOVERSE

vmware **aws** **Microsoft Azure**

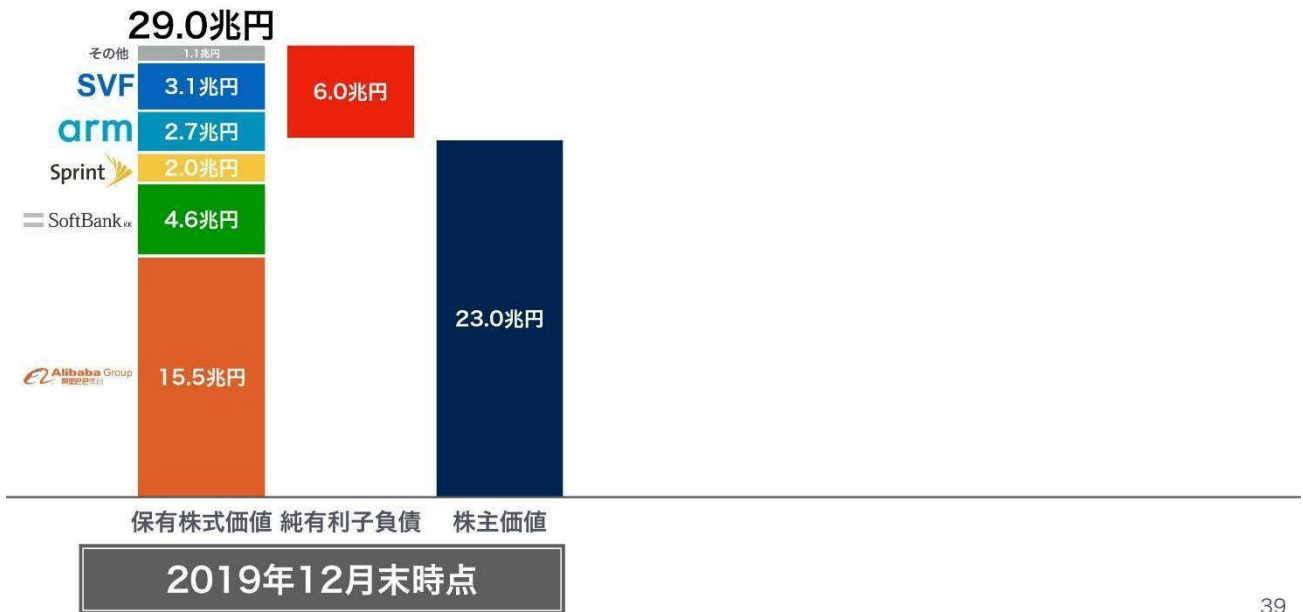
MARVELL **nVIDIA** **docker** **FUJITSU**

(出所) Arm。開発及び提供サービスにNEOVERSEのチップ設計を採用した企業群の一部 37

Amazon 社においては、これからますます Arm のチップを使っていくということが、方針として最近、発表されました。Amazon の AWS だけではなく、マイクロソフト、VM ウェア、NVIDIA、

その他、多くの世界中の企業が Arm ベースのチップをクラウドのサーバーとして使うことを発表し、これが世界的な大きな流れになってきています。ですから Arm の将来性については、私は非常に期待しているところです。

※ 単位：12月30日納期（日本）、12月31日納期（米国）
 注：純負債は「Sum of the Parts」の定義による算出方法（2019年12月末時点）、* 変更前



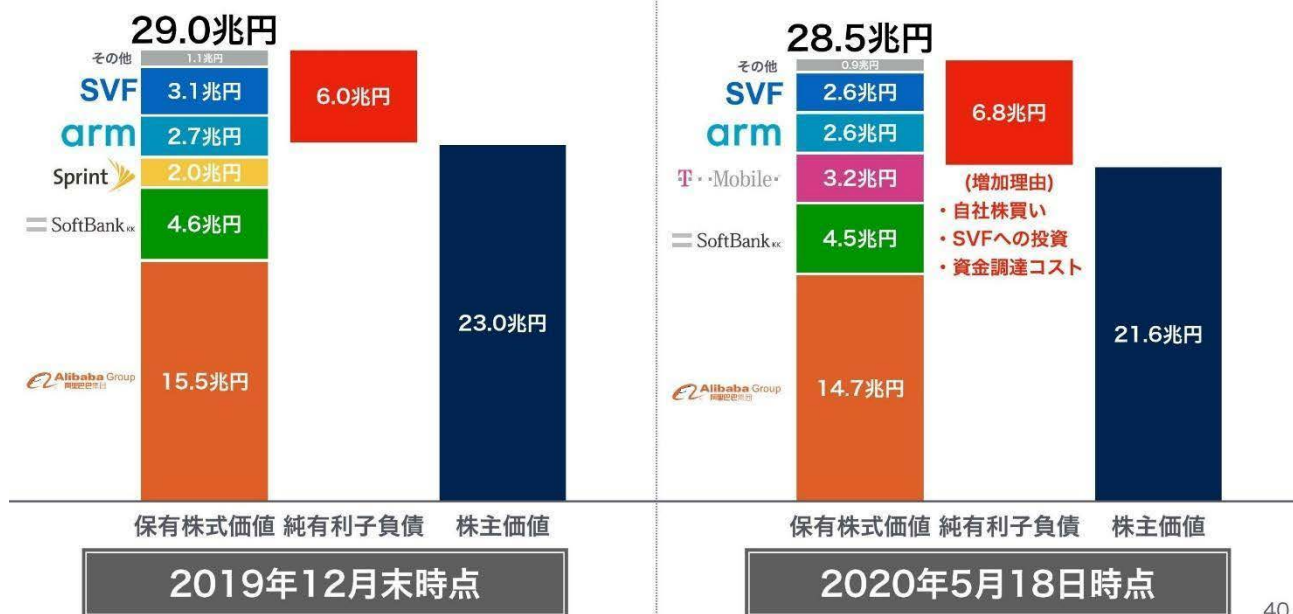
39

さて、大きく分けてアリババ、ソフトバンク、スプリント、そして Arm、最後に SVF。この五つの資産があるわけですが、それぞれについて若干のコメントをしました。

これらを合計したものが、われわれの保有株式の価値になります。株式価値の合計は、12 月末の時点で 29 兆円。それに対して、われわれの純有利子負債は 6 兆円という状況でありました。ですから、12 月末時点で株主の皆さんが保有している価値は 23 兆円だったわけです。

※ 株価：12月30日終値（日本）、12月31日終値（米国）
 ※ 総額は「Sum of the Parts」の定義および算出方法（2019年12月末時点）、※参照

※ 株価：5月18日終値（日本）、5月15日終値（米国）
 ※ 総額は「Sum of the Parts」の定義および算出方法（2020年5月18日時点）、※参照



40

今日現在は、保有株式の価値が29兆円だったものが28.5兆円と、0.5兆円減っています。一方、純有利子負債は6兆円だったものが6.8兆円に増えている状況です。

この3、4カ月の間に発表した自社株買い、資金調達に関連するコスト、SVFへの新たな投資に合計約8,000億円かかっています。これが純有利子負債が増えた理由です。

その結果、株主価値は23兆円だったものが21.6兆円へと1.4兆円減った状況です。株主価値は1.4兆円減っていますが、3割減ったとか、そういう状況ではないことをご理解いただけたらと思います。

SBGの決算説明の中でもし1ページだけ選べということであれば、この1ページが一番重要なページで、他はそれを説明するための補足にすぎないと思っています。ですから本当はこの1ページだけをじっくり見ていただければ、ソフトバンクグループの現況が一番よく分かるということです。

営業利益、売上高、純利益というのは単なる会計上の利益で、むしろわれわれの株主価値が23兆円から21.6兆円に、1.4兆円減ったということを事実として私は重く受け止めています。

株主価値が減ったことは大変重要な問題ですが、昨今、3月末までの状況ではニューヨークダウも日経平均も大きく下がっていますし、冒頭に申し上げた1929年の世界大恐慌のときは、ニューヨークダウの平均株価が10分の1に減ったわけです。また、SBGの時価総額もネットバブルがはじけた直後、2000年には100分の1に減ったという状況でした。

そういう真逆さまの、どん底の状況というのに比べると、減ったことは事実ではありますが、そこまで大ショックを受けるほど減ったという状況ではないということです。

いろいろ言い訳をしましたが、厳しい状況であるということは変わらないと思います。厳しい世界の経済状況、あるいはコロナショックという状況の中で、われわれ SBG としては資産を活用して 4.5 兆円を資金化し、2.5 兆円の自社株買いを行うということをすでに発表しています。

その 2.5 兆円の中の最初の 5,000 億については、自社株買いをこの数カ月の間、粛々に行っている状況です。

また 2.5 兆円の内数として第 1 弾の 5,000 億に加えて、第 2 弾の 5,000 億の自社株買いの枠の設定について、取締役会で金曜日の夜に決議しましたので、今朝発表させていただきました。

Alibaba株式を活用した調達

(2020年4月以降)

調達金額	
先渡契約	1,632億円 (\$1.5bn)
フロア契約	1,632億円 (\$1.5bn)
カラー契約	9,251億円 (\$8.5bn)
合計	1.25兆円 (\$11.5bn)

1ドル=108.83円(2020年3月31日TTM)で換算

41

その財源は、まず第 1 弾としてアリババ株式を活用した先渡契約、フロア契約、そしてカラー契約、この三つの手法を使い、合計で 1.25 兆円の資金を調達し、その調達した資金を自社株買い等に当てています。また今後予定している資金調達をもとに、さらなる自社株買いと財務改善に努めるということです。

純有利子負債/保有株式率 LTV

14%

純有利子負債：アリババ株式およびSBKK株式を活用したアセット・バック・ファイナンスに関連する負債等の合計額を控除
保有株式：アリババ株式およびSBKK株式を活用したアセット・バック・ファイナンスに関連する負債等の合計額を控除
詳細は「Sum of the Partsの定義および算出方法（2020年5月18日時点）」を参照

株価：5月18日終値（日本）、5月15日終値（米国）

42

その中でわれわれは、純有利子負債が保有株式に対する比率、ローン・トゥー・バリューを重要な財務健全のバランスを表す指標として内部的に定めています。平常時で25%未満を目安に運用していこうと内規では定めているわけです。異常時で35%、平常時で25%未満になるように投資活動を行っているわけですが、このようなコロナショックの危機の中でより安全運転をしようと、前回の決算発表では16%だったのですが、今日現在は14%と、さらなる安全運転を試みようとしています。

配当方針(1株当たり)

	2019年度 (予定)	2020年度 (予定)
中間配当	22円	未定
期末配当	22円	未定
年間配当	44円	未定

2020年度は未定の方針







43

そのような考えのもと、配当もより安全に行こうと考えています。この19年度は中間配当22円、期末配当22円、年間44円と発表済みの通りですが、20年度はこのような経済危機の状況ですので、固定的に配当を行うというのではなく、万が一資金がさらに必要になるとも限らないので、未定です。

未定ということは、ゼロ配当もあり得るということです。増配というのはあまり考えられませんが、従来どおりの配当からゼロ配当までの間のどこかで落ち着くということで、経営の選択肢としてその幅を持っておこうと思います。従来は、事前に配当方針を公表しているわけですが、この20年度においては、我々が上場して以来初めてだと思いますが、中間配当も期末配当も選択肢の幅を持たすという意味で、配当方針未定で運用していきたいと考えています。

新型コロナウイルスの世界的拡大

44

		<h2>社会貢献として 医療関係者に 無利益で提供へ</h2>
抗体検査キット*	一般・サージカルマスク	
		
ゴーグル	N95マスク	
		
防護服	フェイスシールド	

*抗体検査キットは無償提供 45

新型コロナは世界的に拡大し、大変な影響を与えているわけですが、SBGは社会貢献の一環として、医療関係者の皆さまに無利益で、一般・サージカルマスク、ゴーグル、マスク、N95、あるいは防護服、フェイスシールドなどを無利益で提供したいと思います。

調達に多くの医療機関が困っている。防護服、あるいは医療用のガウンがなくて雨がっぱ、あるいはゴミ袋をつなぎ合わせてしのいでいるという話や、医療用のマスクも、本来であれば1患者ごとに換える、少なくとも1日1回は換えるはずが、最近は病院でも3日に1回とか、1週間に1回しかマスクを替えられないという異常な状況が続いていると聞いています。

これはもうお金の問題ではなく、調達ができない状況であると聞き、世界中にいるいろいろな友人、知り合い等に協力を依頼し、調達することを決めました。気前よく無料で寄付といきたいところだったのですが、今回、創業以来最大の赤字を出しているのです。抗体検査キット以外のものは、われわれの調達コストに倉庫代、配送料の実費を乗せて、1円も利益を取らずに提供します。抗体検査キットは医療機関に対して無料で寄付をしています。

ユニコーン企業の課題 (コロナ禍)

需要(売上)
の急減

フリーCF
の赤字

46

このように社会に貢献したいわけですが、われわれとしては本業を通じて社会貢献をするのが一番重要なことだと思っています。その本業とは、新しい時代を作っていくことです。「情報革命で人々を幸せに」という経営理念を満たしていくような新しい事業をどんどん興してくれるユニコーン、またその起業家たちを支援するのがわれわれの役割だと思っていますが、このユニコーンも現在、大きく苦戦している状況です。

彼らにとってはただでさえ赤字で、顧客獲得をどんどん増やしている状況なのですが、コロナショックの中で売上が急減しています。世界中で国と国をまたぐような出張や旅行は、国の方針で受け入れないという状況がさまざまな国で起きているわけですから、売上は急減しています。われわれのユニコーンに、さまざまな事業に影響を与えています。

さらに資金が必要なわけですが、資金繰りについても大変苦しい状況です。フリー・キャッシュ・フローの赤字が続いています。

上り坂を一生懸命駆け上っていたユニコーンが、本来であればそのまま上り続けていくところを突然、コロナの谷がやってきて、ユニコーンがどんどん落馬しているような状況で、大変な危機です。しかし、その中には羽が生えて空を超えていくような、本当のユニコーンも現れるのではないかと考えています。危機が来れば来るほど大きく羽ばたくユニコーンも生まれると、私は信じています。



(1929年 世界恐慌からの回復) 当時の新産業が牽引



52

現に 1929 年の世界恐慌から 25 年かかって産業が回復したということを先ほど株式市場の事例で申し上げましたが、その世界恐慌が過ぎ去って、もう一度順調な経済がやってきたときに、同じ事業が回復したのかというと必ずしもそうではありません。それまであった古い産業は相当な打撃を受けて、打撃を受けたまま倒産した会社、あるいは苦しい事業内容になった会社がたくさん現れました。

その世界恐慌の谷の向こうで大きく業績を伸ばしてカムバックしたのは、実はその時代の新規事業、新規産業であった自動車、電気、石油、製造業、あるいは食品加工という新しい産業界でした。



オンライン会議



フードデリバリー



オンライン教育

(新型コロナからの回復) 新たなテクノロジーが牽引



オンライン医療



オンラインショッピング



動画配信サービス

53

つまり、大きな危機の後に復活するのは従来型の産業ではなく、新しい産業ということです。これが新産業として新しい時代を牽引したと私は捉えています。今回のコロナの谷も、そこから大きく回復するのは、従来型の会議のあり方ではなく、オンライン会議になるでしょうし、飲食業もフードデリバリーがこれから大きく伸びていくだろうと思いますし、教育もオンライン教育、医療もオンライン医療、ショッピングもオンラインショッピング、エンターテインメントもオンラインのエンターテインメント、というように人々が物理的に触れ合うことをしなくても、オンライン上で心を触れ合い、医療でも触れ合うということが広がっていくのではないかと私は捉えています。

ですから今、コロナの谷、コロナのショックの中でわれわれのグループ会社のユニコーンも大変な試練を受けていますが、きっと彼らの中から大きく羽ばたいて、新しくその谷の向こう岸に羽ばたき、飛んでいくような企業が生まれていくと私は信じています。



情報革命で人々を幸せに



「情報革命で人々を幸せに」は創業以来、一切ぶれないわれわれの経営理念、ビジョンです。このショックの中でも、ぶれることなく、むしろ原点に立ち返って、さらにしっかりとベルトを締め、そこに向かっていきたいと考えているわけです。

このショックはむしろ、新しい時代へのパラダイムシフトを加速させると捉えて、挑戦をしていきたいと考えています。

以上です。ありがとうございました。

IMPORTANT INFORMATION

Disclaimers

This presentation provides relevant information about SoftBank Group Corp. (“SBG”) and its subsidiaries (together with SBG, the “Company”) and its affiliates (together with the Company, the “Group”) and does not constitute or form any solicitation of investment including any offer to buy or subscribe for any securities in any jurisdiction.

This presentation contains forward-looking statements, beliefs or opinions regarding the Group, such as statements about the Group’s future business, future position and results of operations, including estimates, forecasts, targets and plans for the Group. Without limitation, forward-looking statements often include the words such as “targets”, “plans”, “believes”, “hopes”, “continues”, “expects”, “aims”, “intends”, “will”, “may”, “should”, “would”, “could” “anticipates”, “estimates”, “projects” or words or terms of similar substance or the negative thereof. Any forward-looking statements in this presentation are based on the current assumptions and beliefs of the Group in light of the information currently available to it as of the date hereof. Such forward-looking statements do not represent any guarantee by any member of the Group or its management of future performance and involve known and unknown risks, uncertainties and other factors, including but not limited to: the success of the Group’s business model and strategies; global political and economic trends and fluctuations in financial markets and foreign currencies affecting the Group’s business; unforeseen situations involving key members of Group’s management; risks arising from the Group’s investments in subsidiaries, affiliates and joint ventures; the Group’s ability to respond to changes in technology and business models; competition and competitive factors; the Group’s ability to secure sufficient funding at acceptable terms; factors affecting the SB Funds (as defined below), including SoftBank Vision Fund L.P. and SB Delta Fund (Jersey) L.P., and the Group’s investments therein and transfers of assets thereto; risks relating to the Group’s telecommunications businesses, including telecommunications network capacity, dependence on management and resources of other companies and the effect of regulations regarding health risks associated with electromagnetic waves; risks relating to the renewable energy business; changes in law, regulation and legal systems and administrative sanctions and other orders arising from breaches thereof; changes in accounting and taxation systems; country risk arising from the global nature of the Group’s businesses and investments; issues surrounding intellectual property; information leaks and security; service disruptions or decline in quality due to human error and other factors; natural disasters, accidents and other unpredictable events; national security policy in the U.S. and elsewhere; litigation; issues related to the

proposed merger of Sprint and T-Mobile; and other factors, any of which may cause the Group's actual results, performance, achievements or financial position to be materially different from any future results, performance, achievements or financial position expressed or implied by such forward-looking statements. For more information on these and other factors which may affect the Group's results, performance, achievements, or financial position, see "Risk Factors" on SBG's website at https://group.softbank/en/ir/investors/management_policy/risk_factor. None of the Group nor its management gives any assurances that the expectations expressed in these forward-looking statements will turn out to be correct, and actual results, performance or achievements could materially differ from expectations. Persons viewing this presentation should not place undue reliance on forward looking statements. The Company undertakes no obligation to update any of the forward-looking statements contained in this presentation or any other forward-looking statements the Company may make. Past performance is not an indicator of future results and the results of the Group in this presentation may not be indicative of, and are not an estimate, forecast or projection of the Group's future results.

The Company does not guarantee the accuracy of information in this presentation regarding companies (including, but not limited to, those in which SB Funds have invested) other than the Group which has been quoted from public and other sources.

Regarding Trademarks

Names of companies, products and services that appear in this presentation are trademarks or registered trademarks of their respective companies.

Important Notice – Trading of SBG Common Stock, Disclaimer Regarding Un-sponsored American Depository Receipts.

SBG encourages anyone interested in buying or selling its common stock to do so on the Tokyo Stock Exchange, which is where its common stock is listed and primarily trades. SBG's disclosures are not intended to facilitate trades in, and should not be relied on for decisions to trade, un-sponsored American Depository Receipts ("ADRs").

SBG has not and does not participate in, support, encourage, or otherwise consent to the creation of any un-sponsored ADR programs or the issuance or trading of any ADRs issued

thereunder in respect of its common stock. SBG does not represent to any ADR holder, bank or depositary institution, nor should any such person or entity form the belief, that (i) SBG has any reporting obligations within the meaning of the U.S. Securities Exchange Act of 1934 (“Exchange Act”) or (ii) SBG’s website will contain on an ongoing basis all information necessary for SBG to maintain an exemption from registering its common stock under the Exchange Act pursuant to Rule 12g3-2(b) thereunder.

To the maximum extent permitted by applicable law, SBG and the Group disclaim any responsibility or liability to ADR holders, banks, depositary institutions, or any other entities or individuals in connection with any unsponsored ADRs representing its common stock.

The above disclaimers apply with equal force to the securities of any of the Group which are or may in the future be the subject of unsponsored ADR programs, such as SoftBank Corp. or Z Holdings Corporation.

Notice regarding Fund Information contained in this Presentation

This presentation is furnished to you for informational purposes and is not, and may not be relied on in any manner as, legal, tax, investment, accounting or other advice or as an offer to sell or a solicitation of an offer to buy limited partnership or comparable limited liability equity interests in any fund managed by a subsidiary of SoftBank Group Corp. (the “SB Fund Managers” and each an “SB Fund Manager”, and including SB Investment Advisers (UK) Ltd. and any affiliates thereof (“SBIA”)) (such funds together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle collectively, the “SB Funds” and each an “SB Fund”, including SoftBank Vision Fund L.P.).

For the avoidance of doubt, the SB Funds are prior funds managed by an SB Fund Manager which are not being offered to investors. Information relating to the performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation has been included for background purposes only and should not be considered an indication of the future performance of the relevant SB Fund, any other entity referenced in this presentation or any future fund managed by an SB Fund Manager. References to any specific investments of an SB Fund, to the extent included therein, are presented to illustrate the relevant SB Fund Manager’s investment process and operating philosophy only and should not be construed as a recommendation of any particular investment or security. The investment performance of individual investments of an SB Fund may vary and the performance of the selected transactions is not necessarily

indicative of the performance of all of the applicable prior investments. The specific investments identified and described in this presentation do not represent all of the investments made by the relevant SB Fund Manager, and no assumption should be made that investments identified and discussed therein were or will be profitable.

The performance of an SB Fund in this presentation is based on unrealized valuations of portfolio investments. Valuations of unrealized investments are based on assumptions and factors (including, for example, as of the date of the valuation, average multiples of comparable companies, and other considerations) that the relevant SB Fund Manager believes are reasonable under the circumstances relating to each particular investment. However, there can be no assurance that unrealized investments will be realized at the valuations indicated in this presentation or used to calculate the returns contained therein, and transaction costs connected with such realizations remain unknown and, therefore, are not factored into such calculations. Estimates of unrealized value are subject to numerous variables that change over time. The actual realized returns on the relevant SB Fund's unrealized investments will depend on, among other factors, future operating results, the value of the assets and market conditions at the time of disposition, any related transaction costs and the timing and manner of sale, all of which may differ from the assumptions and circumstances on which the relevant SB Fund Manager's valuations are based.

Past performance is not necessarily indicative of future results. The performance of an SB Fund or any future fund managed by an SB Fund Manager may be materially lower than the performance information presented in this presentation. There can be no assurance that each SB Fund or any future fund managed by the relevant SB Fund Manager will achieve comparable results as those presented therein.

The actual realized return on unrealized investments by an SB Fund may differ materially from the performance information indicated in this presentation. No assumption should be made that investments identified and discussed in this presentation were or will be profitable, or that investments made in the future will be comparable in quality or performance to the investments described therein.

Third-party logos and vendor information included in this presentation are provided for illustrative purposes only. Inclusion of such logos does not imply affiliation with or endorsement by such firms or businesses. There is no guarantee that an SB Fund Manager, an SB Fund's portfolio companies, any future portfolio companies of a future fund managed by an SB Fund

Manager or SoftBank Group Corp. will work with any of the firms or businesses whose logos are included in this presentation in the future.

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、いかなる法域においても、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成するものではなく、またいかなる投資勧誘とみなされるものでもありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績の保証を意味するものではなく、当社グループのビジネスモデル及び戦略の成功、当社グループの事業に影響を与える金融市場及び外国為替の世界的な政治的及び経済的傾向及び変動、当社グループの経営陣の主要メンバーに関する不測の事態、子会社、関連会社及び合併会社に対する当社グループの投資に帰因するリスク、技術及びビジネスモデルの変化に対応する当社グループの能力、競争及び競争的要因、受容可能な条件で十分な資金を保証する当社グループの能力、ソフトバンク・ビジョン・ファンド・エル・ピー及びエスビー・デルタ・ファンド（ジャージー）エル・ピーを含む SB ファンド（以下に定義されます。）、並びにこれらに対する当社グループの投資及びその資産の譲渡に影響を与える要因、当社グループの通信事業（通信ネットワーク容量、他社の管理及び資産への依存並びに電磁波に伴う健康リスクに関する規制の影響を含みます。）に関するリスク、再生可能エネルギー事業に関するリスク、法律、規制及び法制度並びにそれらの違反に起因する行政処分その他命令の変更、会計制度及び税制の変更、当社グループの事業及び投資のグローバル性に起因するカントリーリスク、知的財産に関する問題、情報漏洩及びセキュリティ、人的ミスその他要因によるサービスの停止又は質の低下、自然災害、事故その他予測不可能な事由、米国その他の地域における国家安全保障政策、訴訟、スプリントと T モバイルの合併案に関する問題、並びにその他の要因を含みこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、功績又は財務状態

は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、功績又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、功績又は財務状況に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」 (https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor) をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであると保証するものではなく、実績、業績又は功績は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依存してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測又は予想を示すものではなく、その推定を示すものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引を決定する際に依存してはなりません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在に、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引法（以下「証券取引法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に記載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連し

て、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を負うものではないことを表明します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供のみを目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はソフトバンクグループ株式会社の子会社（以下「SB ファンド運用会社」といい、SB インベストメント・アドバイザー（UK）エル・ティー・ディー及びその関連会社を含みます。）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」といい、ソフトバンク・ビジョン・ファンド・エル・ピーを含みます。）のリミテッド・パートナーシップ持分若しくは同等の有限責任持分の売却の申込み若しくは購入の申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依存してはなりません。

疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、SB ファンド運用会社により運用される従前のファンドであり、投資家に対して販売されていません。SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮すべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する言及は、それに含まれる範囲で、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明するためだけに述べられたものであり、いずれか特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドの各投資の投資パフォーマンスは異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる

金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、本資料に記載されるパフォーマンス情報と著しく異なる可能性があります。本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むものである、又は、将来行われる投資が本資料に説明される投資と質又はパフォーマンスの点で同等であると仮定すべきではありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はソフトバンクグループ株式会社が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。